

平成 25 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、この時期としては強い寒気の影響を受け、全国的に気温が平年を大幅に下回りました。北日本では、寒気や気圧の谷の影響により曇りや雨または雪の日が多く、沖縄・奄美でも、寒気や湿った気流の影響により曇りの日が多くなりました。東・西日本では、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。

中旬は、北海道では寒気や気圧の谷、および海からの冷気の流入により、曇りや雨の日が多くなりました。東北地方と東・西日本では、期間のはじめと終わりに低気圧の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりましたが、中頃は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。沖縄・奄美は前線や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、旬前半には、東北地方と東・西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多く、北海道では気圧の谷などの影響により曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美は梅雨前線の影響により曇りや雨の日が多く、大雨となる日もありました。旬後半には、日本の南で高気圧の勢力が強まり、南から暖かく湿った気流が入りやすくなり北日本から西日本にかけて曇りや雨となりました。一方、沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れる日が続きました。西日本の旬平均気温は、統計を開始した 1961 年以降、5 月下旬としては最も高い値を更新しました。

月平均気温は、北日本で低く、東日本と西日本で高くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、東日本と西日本でかなり少なく、北日本で少なくなり、16 点で 5 月の月降水量の少ない方からの一位を更新しました。一方、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、東日本と西日本でかなり多くなりました。多くの地点で平年の 120%以上となり、23 地点で 5 月の月間日照時間の多い方からの一位を更新しました。北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なくなり、雄武、紋別（いずれも北海道）では 5 月の月間日照時間の少ない方からの一位を更新しました。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より 8 ポイント高い 78%でした。地方毎の適中率は、沖縄地方では例年値より 3 ポイント低くなりましたが、それ以外の地方では例年値より高く、中国地方から北海道地方にかけて例年値より 7～12 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 2.8 になりました。各地方について、関東甲信地方・東海地方・沖縄地方では例年値より 0.3～0.4 小さく、東北地方・四国地方・九州南部地方では例年値より 0.2 大きくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.8 になりました。各地方について、北海道地方・九州北部地方・沖縄地方では例年値より 0.2～0.3 小さくなりました。

^{（注）} 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北地方において梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の育成に大きく影響します。週間天気予報で曇りや雨の日が予想され、平年より気温の低い日が続く場合は、農作物の管理に早めの対策をとるなど注意して下さい。